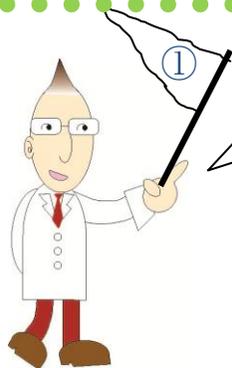


ピアノが美しくなっていく様子を見てみよう



ピアノ工房見学ツアーの巻



まずは、何事も見た目が肝心。どうやって外装がキレイになっていくのか見てみよう。

下の2枚の写真…同じピアノだとは思えないだろう??

このピアノは、40年以上経ったピアノだ。

外装は塗装が剥げて白くなり、肌触りもガサガサで、持ち主の方がもう一度キレイに蘇らせたいと依頼があったんだ。
見違えるね。



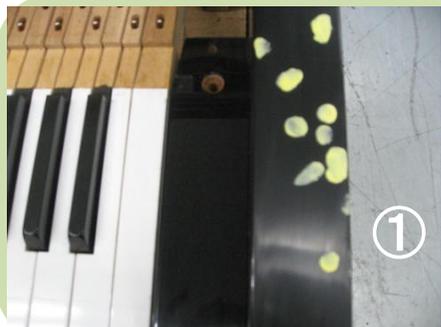


早速、ピアノハープ社の工房に潜入だ。

これが噂の秘密基地…

うわ！ピアノがいっぱいあるぞ！

おやっ！ピアノがバラバラだ～！



深いキズや打ちキズには、パテと言う補修材を埋め、平らに削って黒い色を塗るんだ。その後、また削って磨くとピカピカだ。



ペダルも空気に触れてサビてしまうが、磨けば新品に元通りだ！

細かいキズは、バフという高速研磨機で磨くとピッカピカになるんだぞ！

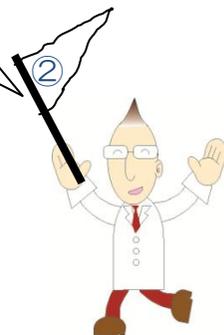
工房では、職人さんたちが、ピアノを分解できるところまでバラバラにして、それはそれは丁寧に一台一台の作業をしているよ。

工房とショールームが一体化しているピアノハープ社だから出来る技だ！



これが、バフ。
速い回転でキズを落とすんだ。

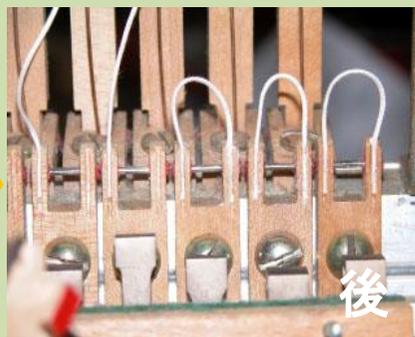
次は中身だ。 おやっ、職人さんたちが修理をしているようだぞ。見てみよう！



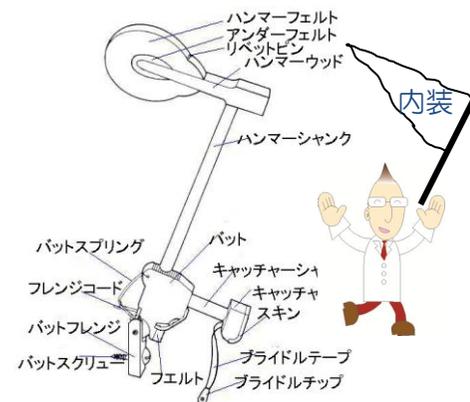
おや？元々白いはずの部分(小口)…変色して反っているようだ。52本すべて張替作業だ。…職人さん、地味な作業だね。



年数が経っているピアノは、このフェルトが痛んでいるんだ。 雑音の原因になるしガタガタするよ。これもまた、地味な作業だ。

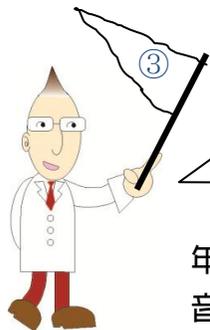


この糸(フレンジコード)は大事な役割なんだ。しかし、経年劣化で茶色くなってしまい切れてしまうんだ。



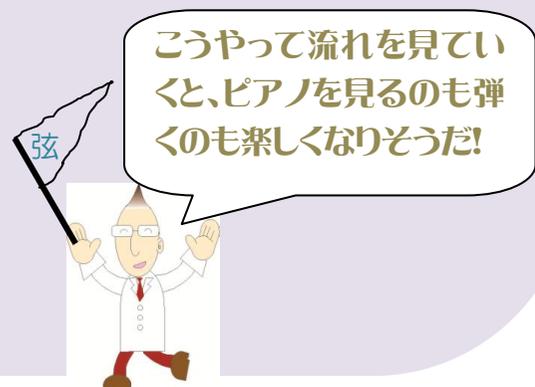
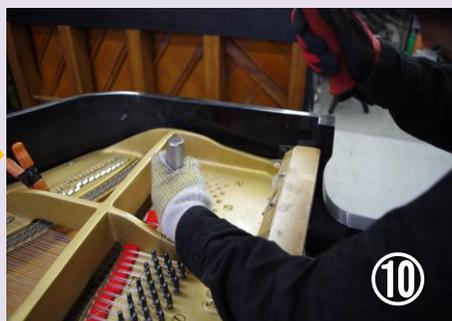
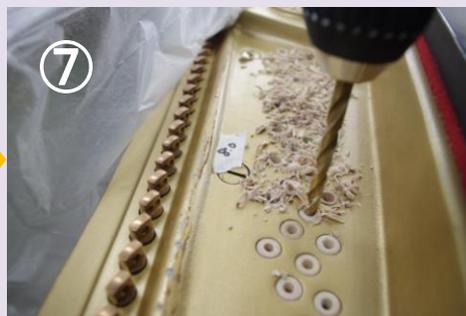
ピアノの中身は、小さな部品でいっぱい!

細かい作業が多く地味だけど、本来のピアノの状態に再生するために日々職人さんたちが作業しているんだね。



グランドピアノの中も見てみたいだろう? ようし、見せてもらおう!
まずは、弦の張り替えだ。

年数の経ったピアノは、弦も弦を支えるピンもサビサビだ。230本のピンを外して弦を巻きなおす作業は、時間も体力もかかるけど、音色が抜群に変わるから、作業依頼も多いんだ。

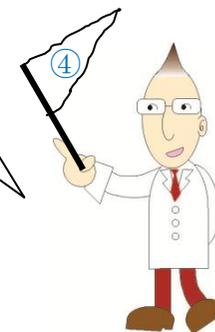


こうやって流れを見ていくと、ピアノを見るのも弾くのも楽しくなりそうだ!

まだまだグランドピアノの中身が続くぞ！

次は、響板のニス塗りの塗り替え作業を見せてもらおう。

響板とは、弦が張ってある下の板の部分のことだ。ニスが塗ってあるんだが、時が経つにつれてホコリがこびり付いたり、変色したりで見かけも悪い。弦を張り替える際にセットで行うことの多い作業だ。



①

ヤマハのマークもこの通り、真黒だ。



②

古くなったニスを薬品で溶かしながら取っていくんだ。これがまた、大変な作業だ。



③



④

そして平らにする。



⑤

どうだい？美しくなってきたらう？？



⑥

下準備を終えたら、新しいニスをスプレーで塗装だ。おや、艶が出たなあ！



⑦



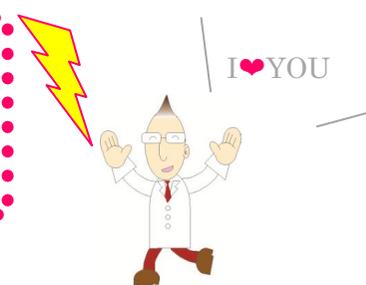
⑧

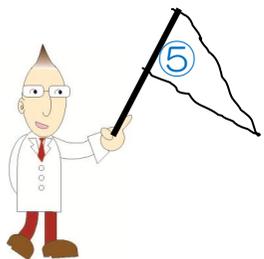
ここまできたら弦を張れるんだ。

なんと！一見すると簡単そうだけど、工房の中はホコリまみれ！職人さんたちは、

防塵マスクやメガネをかけて作業しているぞ。

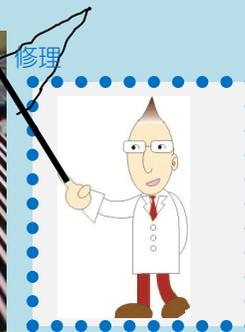
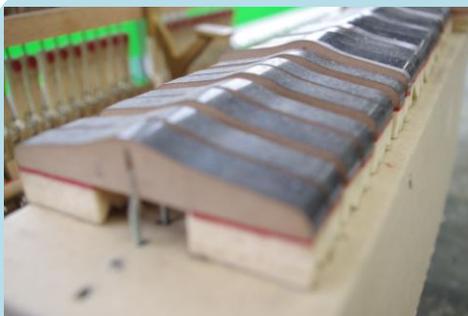
身を削ってピアノをキレイにしている職人さんたちに脱帽だ…。





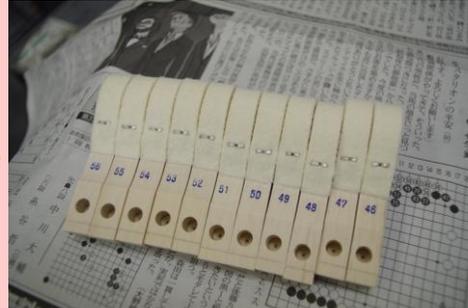
その他の作業も見てもらおう！わくわくするなあ！

グランドピアノのダンパーフェルトの交換作業だ。弦の振動を止める役割なんだよ。



まるで別物になったぞ！

アップライトピアノのハンマー交換の様子だ



この部品はピアノの心臓部。

新しくなると、音色もガラリと生まれ変わるんだぞ！

職人さんも真剣そのものだ。

ピアノハープ工房見学ツアー、楽しんでもらえたかな??

今回、じっくりと職人さんたちと話してみて、彼らのピアノに対する愛情をひしひしと感じたよ。

やはりピアノ一台一台に、愛情を持って接してくれるお店にお任せするのが安心だね！



私たち11名は、ピアノハーフ社技術課です。

ご家庭のピアノの調律は勿論のこと、ピアノに関するすべての事を専門にしている技術者です。

あなたのピアノ、私たちに是非お任せください！

